

6日 火曜

民数



20:1 イスラエルの全会衆は、第一の月にツインの荒野に入った。民はカデシュにとどまった。ミリアムはそこで死んで葬られた。
20:2 そこには、会衆のための水がなかった。彼らは集まってモーセとアロンに逆らった。
20:3 民はモーセと争って言った。「ああ、われわれの兄弟たちが【主】の前で死んだとき、われわれも死んでいたらよかったのに。
20:4 なぜ、あなたがたは【主】の集会をこの荒野に引き入れ、われわれと、われわれの家畜をここで死なせようとするのか。
20:5 なぜ、あなたがたはわれわれをエジプトから連れ上り、このひどい場所に引き入れたのか。ここは穀物も、いちじくも、ぶどうも、ざくろも育つような場所ではない。そのうえ、飲み水さえない。」
20:6 モーセとアロンは集会の前から去り、会見の天幕の入り口にやって来て、ひれ伏した。すると【主】の栄光が彼らに現れた。
20:7 【主】はモーセに告げられた。
20:8 「杖を取れ。あなたとあなたの兄弟アロンは、会衆を集めよ。あなたがたが彼らの目の前で岩に命じれば、岩は水を出す。彼らのために岩から水を出して、会衆とその家畜に飲ませよ。」
20:9 そこでモーセは、主が彼に命じられたとおりに、【主】の前から杖を取った。
20:10 モーセとアロンは岩の前に集会を召集し、彼らに言った。「逆らう者たちよ。さあ、聞け。この岩から、われわれがあなたがたのために水を出さなければならないのか。」
20:11 モーセは手を上げ、彼の杖で岩を二度打った。すると、豊かな水が湧き出たので、

会衆もその家畜も飲んだ。

20:12 しかし、【主】はモーセとアロンに言われた。「あなたがたはわたしを信頼せず、イスラエルの子らの見ている前でわたしが聖であることを現さなかった。それゆえ、あなたがたはこの集会を、わたしが彼らに与えた地に導き入れることはできない。」
20:13 これがメリバの水である。イスラエルの子らが【主】と争った場所であり、主はご自分が聖であることを彼らのうちに示されたのである。

水がなかったことにより、民はまた不平をもらいました。水を求めるというのなら良かったでしょうが、不平不満の心になり、「逆らった」うえに「争って」、さらにはこれまでの神の恵と守りを否定して、「私たちも死んでいたらよかった」と言い放ち、「私たちを死なせようとするのか」と、有り得ないことで自分たちを被害者でもあるかのように言っています。

人の心が信仰から反れると、まさにこのように際限なく否定的になるものです。人を批判しておきながら、自分が被害者のように思ってしまうので、私たちは気をつけなければなりません。

モーセとアロンは主の前にひれ伏したので、この点は見習うべきでしょう。しかし、「逆らう者たちよ。」と人々をさばき、「私たちがあなたがたのために水を出さなければならないのか。」という非難のことばとともに、怒りにまかせて2度も岩を打ってしまいました。神様は「命じれば…」と言われたのに、彼は怒りを納めることができなかったのです。

モーセはここで自我が出てしまいました。不信仰な人々を認定して指導するのではなく、感情を主として自分中心になってしまったのです。しかも主に従っているようでありながら、自分の怒りを主にしてしまったのです。

モーセは約束に地に入るという最高の栄誉を失いました。私たちも時として、忍耐の限りを尽く

さないなら、最高の栄誉を失うことがあるので気をつけなければなりません。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

